



水平線の上、左右に微かに見える齒舞群島と
その間手前に見えるロシアの灯台

「冬が来た」 高村光太郎

きつぱりと冬が来た
八つ手の白い花も消え
いてふの木もほうきになった

きりきりともみ込むような冬が来た
人にいやがられる冬
草木に背むかれ、
虫類に逃げられる冬が来た

冬よ

僕に來い、僕に來い
僕は冬の力、冬は僕の糸じきだ

しみ透れ、つきぬけ
火事を出せ、雪で埋めろ
刃物のやうな冬が来た

今年も3密を避け予約制で開館です
2023年・12月16日(土)、17日(日)

12月17日午前は

★子どもも大人もクリスマスお楽しみ会★

来24年の開館日も従来通り、
第3日曜日と前日の土曜日

1月20日(土)、21日(日)

2月17日(土)、18日(日)

3月16日(土)、17日(日)

4月20日(土)、21日(日)

5月18日(土)、19日(日)

5月19日日曜日

若葉のころのおはなし会

午前：小さい人たちに午後：大きい人たちに

文庫・開館時間：土曜日 13:00~17:00

日曜日 10:00~15:00

子どものための読み聞かせ・おはなし会

文庫のある日曜日 10:30~11:00

おはなし沙羅・おはなし勉強会

文庫のある土曜日 10:30~12:30

沙羅の樹文庫

〒413-0235 伊東市大室高原 7-122

☎0557-51-3737 (090-6039-3782)

沙羅の樹分館ゆるかの里子ども文庫

〒413-0232 伊東市八幡野 924-1

☎0557-54-1910

開室日：水曜日 13:00~15:00

：日曜日 10:00~15:00



納沙布岬灯台（そのすぐ向こうに齒舞群島が）

文庫あれこれ◆山茶花が

咲く季節になりました。
散歩をしていると、赤や
ピンクだけでなく、白い
のもを見つけました。老人
にとって山茶花はくたび



の歌とイコールですね。同時に、家の脇の桜並
木の落ち葉掃きからやっと解放される・・・？◆
表紙とラストページの写真は月初、納沙布岬で撮り
ました。晴天で風もなく寒くもなく、でした。連れ
合いのお目当て、毛蟹が期待外れだったのが残念で
したが。◆ウクライナとロシアだけでなく、イスラ
エルとガザ（パレスチナ）の戦争は年を超えても続
くのでしょうか。◆屋久島付近に米軍オスプレイが
落ちて何人もの死者が出て。◆新聞を見ると、個人
的に色々な問題に立ち向かう人もありますが、国と
してどうなんだろうの疑問が。資質を問われる政治
家ばかりの国。◆シクラメンと言えば、この時期。



そして布施明「シクラメン
のかほり」（小椋佳/詩）で
すね。歌の中のシクラメン
は真綿色ですが。

◆近くに用賀の名主さんの
家があります。広い敷地で、背の高い木がたくさん
あります。昨日、柿の実がたくさんなっていて、カ
ラスが飛んできてとまっているのを見て思い出しま
した。短いお話で「柿の木のはなし」：柿の実がた
くさんなって、そこへカラスが一羽、柿の実を突い
て実は地面へ、またカラスが飛んできて柿の実を突
いて…、ついに一つも無くなって、地面に落ちた柿
の実にはモグラが次々顔を出して食べてしまう。おま
けに風が吹いて葉っぱも全部散ってしまう。でも柿
の木は言うんです。よし、来年もたくさん実をなら
かすぞーって。◆山茶花の花言葉のように、「ひた
むきさ」と「困難に打ち克つ」で、新年も乗り切り
ますか♥◆話題の新刊も入っています。（西村）

シャーロック・ホームズを推理する (13) ~ホームズの失敗~小林 由美

シャーロック・ホームズは「名探偵」と言われますが、実はホームズにも多くの失敗があります。前回ご紹介した「ボヘミアの醜聞」の事件では、アイリーン・アドラーに完敗し、ボヘミア国王の依頼である「アドラーと一緒に写った写真を取り戻すこと」はできませんでした。この物語は、短編集『シャーロック・ホームズの冒険』の最初に収められているものですが、ドイルがホームズ物の短編を当時ロンドンで発行されていた「ストランドマガジン」に連載し始めた第1作目だったわけです(注)。第1作から名探偵が失敗する話を書くというのは、通常あり得ないと思うのですが、そこが作者コナン・ドイルの読者を惹きつける「技」であったように思います。

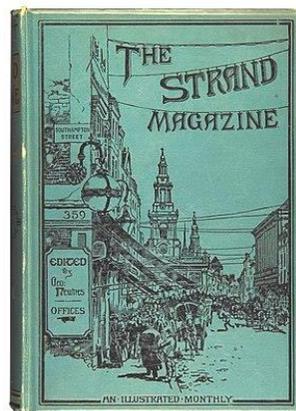
このほかにも、60篇のホームズ物語の中には失敗談はいくつかあります。「黄色い顔」(『シャーロック・ホームズの事件簿』所収)は、依頼人の妻がかくまっている人物をホームズは前夫と推測し、ノーベリーにある家に踏み込んだところ、そうではない意外な人物が発見され、結局事件というほどの事件ではなく、穏便に解決したという話です。その出来事の終わりに、ホームズはワトソンに「もし僕が自信過剰になったり、努力を惜しんだりしたときは、『ノーベリー』とささやいてくれ」と自省を込めて言います。ここでもホームズは自分の過ちを素直に認めています。

もっとひどいケースは、依頼人を死なせてしまったという事件。「踊る人形」(『シャーロック・ホームズの冒険』所収)では、依頼人の妻を脅迫していた犯人の書いた暗号をホームズは解読し、犯人を取り押さえることはできたものの、依頼人は犯人に射殺されてしまいました。「オレンジの種5つ」(『シャーロック・ホームズの冒険』所収)では、依頼人はホームズのもとへ相談に来た帰路にあっけなく殺されてしまいます。

ほかにも、ホームズが犯人を追い詰める前に、恨みを持った人物が犯人に復讐して終わるという話もあり、必ずしも名探偵が鮮やかに事件を解決する話ばかりではない、というのがシャーロック・ホームズ・シリーズなのです。

そのような、天才的でありながら必ずしも完璧ではないホームズという人物の描き具合、そしてさまざまな登場人物の人間臭さこそが、このシリーズが長く愛される魅力なのではないでしょうか。

(注)ストランドマガジンに短編が発表される前に、長編2作：「緋色の研究」「四つの署名」が発表されている。



徒然なるままに・・・ さ・ら

★師走に入っすぐ、2泊で北海道に行ってきた。目的は納沙布岬、そして北方領土を感じる。テレビ番組でのちょい浅学で、それまでは北方領土4島は、いくつかの戦争でとったりとられたりしてきたのだと思っていました。でも、日本が見つめて日本人が住み着いて以来、平和的に日本のものとして認められていた。それを、何を勘違いしたか第2次世界大戦後、ロシア(当時ソ連)が、住んでいた日本人を追い出し、自国の土地のように振る舞い続けていると。★帰りにレンタカー屋さんで、係の人が、お父さんは歯舞から7歳で強制的に本土に戻されたと聞きました。彼女は納沙布近くの歯舞(移り住んだ人々は、きっと生まれ暮らした土地名をつけたのでしょね)で生まれ育ったそうです。岬から見ると一番手前に見えるのが歯舞群島の水晶島だと教えてくれました。その島より日本寄りにロシアの灯台が見えました。それより手前でしか漁はできない。納沙布から僅か7キロの自国に行けないとは!! 岬周辺には、北方領土返還の縦旗がたくさん風に揺れていました。★さて、飛行機を降り立った中標津空港から往復400キロの運転(北海道の道が運転しやすいこと承知)で連れ合い曰く、80の身には、もう長距離運転は無理、ちょい旅も終わりだね、と。(文庫だよりにいつも写真ありがとう、でした)



納沙布岬への途中厚岸から海沿いに入ったところに美しい海岸(鯨浜)が。地球がまあるく見えました。

23. 12 月に入る子どもの本

絵本

- 『どこどこ? ねどこ』(juno 作 福音館書店 2023) ID14011
『赤いめんどり』(アリソン・アトリー作 青木由紀子訳 福音館書店 2003) ID14000
『ちいさなトガリネズミ』(みやこしあきこさく 偕成社 2022) ID14001
『クリスマスマーケット~ちいさなクロのおはなし』(降矢なな作 福音館書店 2023) ID14003
『「はい」「いいえ」ほうこく』(浜田桂子作 理論社 2023) ID14005
『いつか きっと』(アマダ・ゴーマン文 あすなろ書房 2023) ID14006
『ゆうやけにとけていく』(ザ・キャビンカンパニー著 小学館 2023) ID14007
『ウサギのソロモン、へんしんする』(ウィリアム・スタイグ作絵 さくまゆみこ訳 徳間書店 2023) ID14008

読みもの

- 『サンタクロースは空飛ぶ宅配便ではありません』(市川宣子作 ポプラ社 2023) ID14004
『クリスマスの小屋』(ルース・ソーヤー再話 上條由美子訳 福音館書店 2020) ID14002
『夏のサンタクロースーフィンランドのお話集』(アンニ・スヴァン作 古市真由美訳 岩波少年文庫 2023) ID13999
『イソップのおはなし』(小出正吾作 のら書店 2023) ID14009
『車のいろは空の色 4 ゆめでもいい』(あま

- んきみこ作 ポプラ社 2023) ID13993
『真昼のユウレイたち』(岩瀬成子作 偕成社 2023) ID13994
『夜空にひらく』(いとうみく作 アリス館 2023) ID13995
『かげふみ』(朽木祥作 光村図書 2023) ID13996
『フォグー霧の色をしたオオカミ』(マルタ・パラッツイーシ作 杉本あり訳 岩崎書店 2023) ID13997
『アンナの戦争』(ヘレン・ピーターズ作 尾崎愛子訳 偕成社 2023) ID13998

23. 12 月に入る大人の本

フィクション

- 『トゥデイズ』(長嶋有 著 講談社 2023) ID19153
『照子と瑠衣』(井上荒野 著 祥伝社 2023) ID19154
『恋とそれとあと全部』(住野よる 著 文藝春秋 2023) ID19165
『私労働小説 the shit job』(プレイティみかこ 著 角川書店 2023) ID19155
『カーテンコール』(筒井康隆 著 新潮社 2023) ID19156
『半暮刻』(月村了衛 著 双葉社 2023) ID19157
『ふるあめりかに袖はぬらさじ』(有吉佐和子 著 祥伝社 1970) ID19154
『椿ノ恋文』(小川糸 著 幻冬舎 2023) ID19174
『諸葛亮 上』『諸葛亮 下』(宮城谷昌光 著 日

- 経 BP 日本経済新聞出版 2023) ID19175~6
『ピュウ Pew』(キャサリン・レイシー 著 井上里訳 岩波書店 2023) ID19158
『長恨歌』(王安憶 著 飯塚容訳 アストラハウス 2023) ID19159

エッセイほか

- 『嫉妬と階級の『源氏物語』』(大塚ひかり 著 新潮社 2023) ID19161
『見知らぬイタリアを探して』(内田洋子 著 小学館 2023) ID19163
『思い出の屑籠』(佐藤愛子 著 中央公論新社 2023) ID19162
『おとめ座の荷風』(持田叙子 著 慶應義塾大学出版会 2023) ID19160
『はじめてであう安野光雅』(安野光雅、森田真生 ほか 著 新潮社 2023) ID19164
『愛・夢ばなし 私の出会った素敵な人たち』(佐々木愛 著 教育史料出版会 2001) ID19173

新書

- 『源氏物語入門』(高木和子 著 岩波ジュニア新書 2023) ID19170

文庫

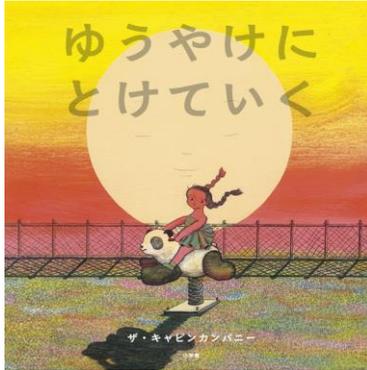
- 『伊勢物語』(川上弘美 訳 河出文庫 2023) ID19167
『平家物語 1』(古川日出夫 訳 河出文庫 2023) ID19168
『源氏物語 1』(角田光代 訳 河出文庫 2023) ID19169
『古事記』(池澤夏樹 訳 河出文庫 2023) ID19171
『発達障害に生まれて 自閉症児と母の 17 年』(松永正訓 著 中公文庫 2023) ID19172

子どもにおとなに 絵本をオススメ

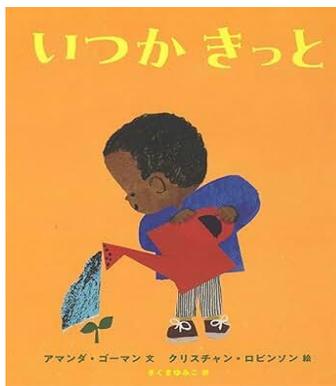
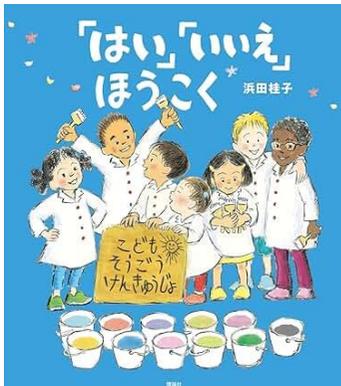
師走に、急かずにゆっくり、ほっこり、時間を過ごしてみませんか!!

(今月、入った絵本から)

物悲しさの中にふーっと、日常を顧みる・・・。



下2冊は、子どもの言い分、しっかり受け止めて、嬉しい♥



作者降矢ななさんの住むスロヴァキアのクリスマス風景でしょうか! 人(犬)も優しく、舞台である市場の中に溶け込んで♥

おおつか文庫 (立川) のある日

立川の静かな住宅地にあるおおつか文庫。

★いいなあ、子どももお母さんたちも楽しんでいます★



毎週木曜の午後開室。地元の親子に根付いて40年。コロナの時も、お母さんが子どもと本をいっぱい借りて行ったとか。介護施設に勤めている人が、ご老人に読んであげる本はないかと、探しに見えるとか♥何より母子2代の文庫っ子がいるな



んて♥
時には、→
おやつを分け合います!!



♪文庫のおばさんでなく、今日は、お母さんが読み手のおはなし会。



少しだけ雰囲気を感じました?!

厚岸に泊まって納沙布岬に行くと友人に伝えたら、教えてくれたので、勇んで行きました。

何処かって? シブりでアニメ化されたイギリスの児童文学『**思い出のマーニー**』のモデルになった場所です。納沙布に行く道を、厚岸から海沿いに出てしばらく行ったところに、何気ない小さな港が。でもたくさんの漁船(小さな)があって、車から降りて、人の良さそうな漁師さんに聞いてみてやっと判明。主人公アンナが、転地療養に行った場所、そして、あの懐かしい**しめっ地やしき**が沼の向こうに見える場所。どこにでもありそうな場所でしたが、シブリの製作者はここを舞台として感じる場所があったのでしょうか。藻散布沼(もちりっぶぬま)でした。『思い出のマーニー』は、拙著『ふくろ小路のそのまたむこう』にも読後感を書き、今でも心に残る本ですが、そしてその場所は、映画や、モデルとなった場所とも少し違う気がしましたが、何気ない漁村(アサリが取れるとか)の静かな雰囲気は、アンナの心を癒したかもね、とも思いました。

(情景をうまく撮れずごめんなさい)

